

リュウキュウカジカガエル幼生・幼体の色彩変異

小巻 翔平・井川 武・住田 正幸

739-8526 東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設

Color variations in tadpoles and juveniles of *Buergeria japonica*

By Shohei Komaki, Takeshi Igawa, and Masayuki Sumida

*Institute for Amphibian Biology, Graduate School of Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima
739-8526, Japan*

リュウキュウカジカガエル (*Buergeria japonica*) は鹿児島県十島村口之島から台湾にかけての広域に見られる普通種である (前田・松井, 1999; 前之園・戸田, 2007). 一方で, 台湾を含めた広域で比較した場合でも

形態的な差異は著しくないとされ, 実際に本種の形態的差異に関する報告は見られない. しかしながら今回, 本種の幼生・幼体において明瞭な色彩変異が観察されたので報告する. 著者らは2013年6月から9月にかけて, 口

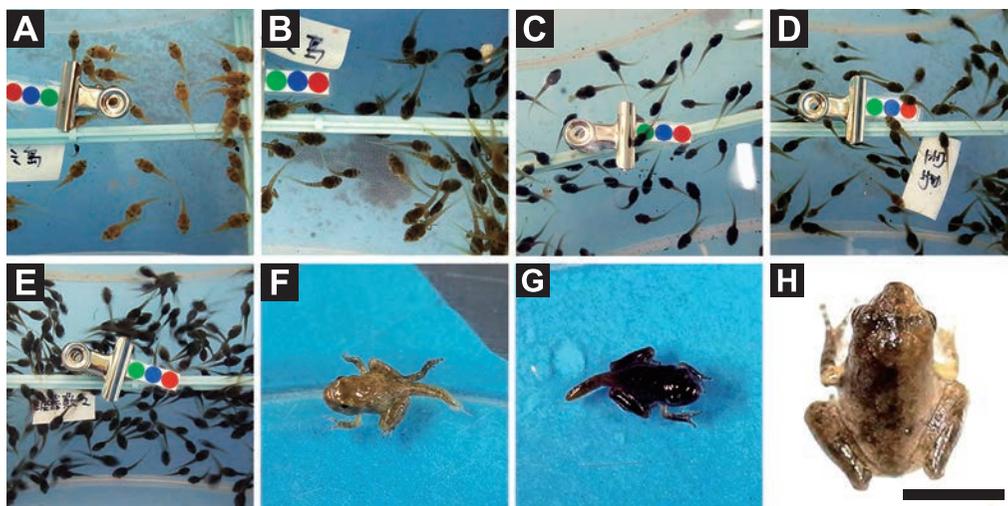


図1. 各集団から得られた幼生および幼体. A-E: 口之島, 中之島, 悪石島, 宝島, 渡嘉敷島の各集団からそれぞれ得られた幼生. F, G: 口之島, 中之島集団からそれぞれ得られた幼体. H: 悪石島集団から得られた左右モザイク個体. スケールバー: 5 mm.

Fig. 1. Tadpoles and juveniles of *Buergeria japonica* from several islands of the Ryukyus. A-E: Tadpoles from Kuchinoshima Is., Nakanoshima Is., Akusekijima Is., Takarajima Is., and Tokashikijima Is., respectively. F-G: Juveniles from Kuchinoshima Is. and Nakanoshima Is., respectively. H: Gynandromorph juvenile of Akusekijima Is. Scale bar=5 mm.

之島・中之島・悪石島・宝島・渡嘉敷島からリュウキュウカジガエルを、雌雄あわせて約20個体ずつ収集し、温度（約18-25度）と明暗周期（明期：午前8時-午後6時）を管理した室内で集団ごとに飼育した。その後、飼育開始から1週間以内にケース内での自然交配により卵が産出されたことから、これらを水温22度に設定した単一のプールにおいて変態するまで集団ごとに飼育した。エサはナマズ用の沈下性飼料を与え、明暗周期は成体と同一であった。

孵化した各集団の幼生のうち、口之島集団は全個体が薄褐色（図 1A）、中之島集団は薄褐色から黒褐色（図 1B）、その他の集団が褐色～黒褐色（図 1C-E）をそれぞれ呈していた。この色彩の差異は、明条件下および4時間暗条件下においた直後のいずれでも見られた。また変態直後の幼体でも同様の色彩の差異が観察された（図 1F,G）。

さらに悪石島集団から、これら2つの色彩を併せ持った左右モザイク個体を得られた（図 1H）。この個体は左半身が濃褐色を、右

半身が口之島集団と同様の薄褐色をそれぞれ呈していた。

一方で、各島で採集された成体には明瞭な色彩の差異が見られず、いずれも口之島集団の幼生・幼体に近い薄褐色を呈していた。無尾両生類では成長に伴い体色が変わることが知られていることから（Hoffman and Blouin, 2000）、今回見られた体色の差異も成長に伴い失われる可能性がある。

この体色変異が遺伝的要因によるものなのかどうか、そして成長に伴いどのように変化するのかを検証するためには、より詳細な観察が必要である。

引用文献

- Hoffman, E. A. and M. S. Blouin. 2000. A review of color and pattern polymorphisms in anurans. *Biol. J. Linn. Soc.* 70: 633-665.
- 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版 日本カエル図鑑. 文一総合出版, 東京. p. 186-189.
- 前之園唯史・戸田守. 2007. 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. *Akamata* (18): 28-46.